

科目名	ファイナンシャル・ アカウンティング論特講	担当者	マルモリ 丸 森 カズヒロ 一 寛	期間	通年	単位数	4
-----	--------------------------	-----	----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>本講座は経営分野での共通言語である企業会計の知識・技術・マナーを修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。【A-1:4】</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。【A-4:4】</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。【A-6:4】</p> <p>IV. 団体の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。【A-7:4】</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリックの該当番号】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>経営管理者が適切な意思決定を行うために、外部報告目的の財務諸表のメカニズムとその分析方法を理解し、企業活動を適切に表現並びに分析できる企業会計の知識・技能・マナーを修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>i. 企業会計における認識・測定ルールを説明できる。(知識・想起)</p> <p>ii. 企業活動と財務諸表の関係を説明できる。(知識・解釈)</p> <p>iii. 財務諸表から企業活動を測定並びに評価できる。(技能・コントロール)</p> <p>iv. 企業活動を適切に表現するために一般に公正妥当な会計ルールに配慮できる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法) 【LS】と 学修時間	<p>①基本教材を熟読し、副教材の問題の回答を準備して解答との照合を行うとともに解説を読んで理解を深める。全体を12の学修テーマに分け、各テーマ毎に具体的な学修目標(4項目から17項目)を設定し、学修目標毎に基本教材および副教材(有価証券報告書等)の該当箇所を明示するとともに、副教材を問題&回答形式とすることにより、履修者が自習によっても学修目標がクリアできるように工夫されている。(自習)【SBO i. & ii.】【20時間/レポート1本】</p> <p>②レポート課題に沿った事例及びデータを収集し分析する。(自主研究)【SBO ii.】【10時間/レポート1本】</p> <p>③レポートの草案を作成する。(レポート作成)【SBO ii. & iii. & iv.】【5時間/レポート1本】</p> <p>④manaba folioでの掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。(ディベート)【SBO ii. & iii. & iv.】【10時間/レポート1本】</p>		
スケジュール	<p>前半は学修テーマ1.から6.を学習範囲とする。6月末までに一通りの学習を終了させ、「基本教材1」のレポート課題1を7月15日、レポート課題2を8月15日までに、それぞれ初稿を提出していただき、9月19日を最終稿の提出期限とする。</p> <p>後半は学修テーマ7.から12.を学習範囲とする。11月中旬までに一通りの学習を終了させ、「基本教材2」のレポート課題1を11月15日、レポート課題2を12月15日までに、それぞれ初稿を提出していただき、1月14日を最終稿の提出期限とする。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	70 %	<p>課題に関係する重要な論点をおさえているか。</p> <p>結論が明確であるか。</p> <p>結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。</p> <p>引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。</p>
	観察記録	30 %	<p>活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。</p> <p>レポートの提出期限を厳守したか。</p> <p>受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。</p> <p>明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。</p>
履修者への要望	<p>会計関係の知識の有無は問いませんが、マーケティング、経営戦略の基本的な知識を習得しているか、あるいは当該科目を履修中であることが望ましいと考えます。“計画的かつ到達目標において示した時間を投入して学習できること”が履修要件と考えています。年度初めにたてた計画に従い、各学習目標毎の問題について必ず回答を準備してから解答と照らし合わせ、疑問点は躊躇することなく教員にメールで質問し、各テーマの学習目標を着実にクリアしてください。また、回答の準備、質問あるいはレポートにおいては「限られた情報を前提に常に意思決定を行う。」という姿勢で臨んでください。なお、履修希望者になるべく早く学修をスタートさせていただくために、履修登録を行うと同時に担当教員 (marumori.kazuhiro@nihon-u.ac.jp) にその旨メールにて連絡をお願いいたします。勿論、その後の履修取り消し期間内において取り消しをすることは構いません。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名：伊藤邦夫 教材名：『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社、2014年） ISBN:978-4-532-13448-8 3,500円+税</p> <p>会計基準や制度の説明にとどまらず、企業の会計行動や会計事象にも焦点をあて、その背後にある要因の説明に多くのスペースを割いている。国内で評価の高いMBAコースの基本テキストとして採用されており、理論や歴史から実務事例までを網羅している点で、修士課程の基本教材として最適である。</p>
参考図書	<p>著者名：金子智朗 教材名：『MBA財務会計第2版』（日経BP社、2006年） ISBN:978-4822245344 2,592円</p>
履修上のポイント	<p>「1.複式簿記と財務諸表の構造」（学修テーマ1.）をまず理解したうえで、企業活動（2.販売、3.購買・生産、4.設備投資、5.研究開発・マーケティング・人的資源管理、6.投資と資金調達）により、その投影図である財務諸表のどの部分がどのように変化するかという学修テーマ2.から6.を理解する。その際、「企業の具体的な活動が財務諸表にどう表現されるか」、とともに「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」を常に意識することが重要である。SB0i.、SB0ii.及びSB0iii.の達成を目指す。</p>
レポート課題1	<p>「損益とキャッシュ・フローは一致しない。」という命題について、1)どのようなメカニズムでそうなるのか、2)なぜこの命題が重要なのか、3.)1)及び2)から導き出される経営管理上の留意点は何か、という観点から説明してください。 留意点：学修テーマ1.から6.までの内容を丹念に復習して課題に臨んでください。</p>
レポート課題2	<p>株式会社ファーストリテイリング（2014年8月期）の有価証券報告書をもとに、同社の経営戦略及び企業活動を分析してください。 留意点：特にマーケティング、生産管理、などについての知識をフルに使い、同社の戦略が財務諸表にどのように表現されているかという観点から、具体的な分析を行ってください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名：伊藤邦夫 教材名：『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社、2014年） ISBN:978-4-532-13448-8 3,500円+税</p> <p>会計基準や制度の説明にとどまらず、企業の会計行動や会計事象にも焦点をあて、その背後にある要因の説明に多くのスペースを割いている。理論や歴史から実務事例までを網羅しており、また国内で評価の高いMBAコースの基本テキストとして採用されている点で、修士課程の基本教材として最適である。</p>
参考図書	<p>著者名：金子智朗 教材名：『MBA財務会計第2版』（日経BP社、2006年） ISBN:978-4822245344 2,592円</p>
履修上のポイント	<p>前半でカバーできなかった、7.引当金、8.税金と税効果、9.キャッシュ・フロー計算書、10.外貨建取引、11.連結とM&A、という学修テーマを取り上げるとともに、各テーマ毎に取り上げてきた経営分析と評価を学修テーマ12.として総括する。会計政策を使って「企業をどう見せるか」ということと、ファンダメンタル分析の方法とその限界を理解することが重要である。SB0iii.及びSB0iv.の達成を目指す。</p>
レポート課題1	<p>損益とキャッシュ・フローに与える影響から「実質的会計政策」を分類し、日本の中小企業の多くが該当する非上場のオーナー会社において、分類された各々の「実質的会計政策」を行使する目的とその具体例を論じてください。 留意点：経営者の立場から考察してください。</p>
レポート課題2	<p>ケース「C社」を分析し、投資対象としてのC社の評価とその理由を論じてください。 留意点：ファンダメンタル分析を行った上で、これまでの学習で得た知識を最大限に活用してください。</p>